

つがる市にて絶滅危惧種 I A 類 「ガシャモク」を発見 —国内 2 箇所目の現存する自然個体群、 国内の分布北限を大きく更新—

新潟大学教育学部 志賀 隆 准教授，首藤光太郎 研究員，市民グループ津軽植物の会，弘前大学白神自然環境研究所の合同チームは，つがる市の湖沼において調査を行い，環境省が定める絶滅危惧 I A 類に指定された植物「ガシャモク（ヒルムシロ科）」の生育を確認しました。これまでの日本国内の北限とされていた場所（北関東の湖沼群）を 500km 以上更新する新産地の発見です。

【ガシャモクとは】

ガシャモク (*Potamogeton lucens*: ヒルムシロ科ヒルムシロ属) は，関東地方、琵琶湖、九州に分布していたとされる水生植物です。なかでも，関東地方では肥料に用いられるほど多く生育していました。しかし，わずか 100 年間で水質汚濁により全国のほとんどで絶滅してしまいました。現在，自然集団は福岡県の一湖沼のみであり，今や幻の水草となっています。そのため，環境省のレッドデータブックでは，国内で絶滅が懸念されている種の中では最も高いランクである「絶滅危惧 I A 類 (CR)」に指定されています。



ガシャモク

【今回の発見の経緯】

2017 年 6 月，環境省環境研究総合推進費「湿地の多面的価値評価軸の開発と広域評価に向けた情報基盤形成」事業の一環として行った青森県での野外調査において，ガシャモクの切れ藻を発見しました。

葉柄が非常に短く，葉脈が目立つ特徴的な沈水葉を有していたことから，本種と同定されました（図 1）。なお，ガシャモクを含むヒルムシロ属は他種との雑種をよく形成することが知られているため，他種との雑種ではないことを明らかにするために，葉緑体および核 DNA の塩基配列が千葉県および福岡県産のものとは一致することや，正常な花粉をもつことも確認しました。この成果については，現在論文を投稿中です。

図 1. ガシャモクと生育地の様子



a. 切れ藻が漂着していた地点の様子



b. 漂着したガシャモクの切れ藻



c. ガシャモク



d. ガシャモクの花,

【本件に関するお問い合わせ先】
新潟大学教育学部
准教授 志賀 隆(しが たかし)
E-mail: shiga@ed.niigata-u.ac.jp